

## 平成 30 年度 「学生プロデュース」 実施結果報告書

<b>1 プロジェクト名</b> DAIKYO ALLY WEEK					
<b>2 実施日程</b> 2018 年 12 月 3 日(月)～2018 年 12 月 7 日(金)					
<b>3 実施内容</b> <p>教員になる人も多い本学に、ALLY の学生を増やしたい。悪気なく人を傷つけたり差別したりしてしまうことのない、優しさや思いやりをきちんと伝えられる人に一人ひとりになるために、様々な背景をもつ方との出会いの場を設けることで、「思いやり方」「自分と違うものの尊重の仕方」を学べる一週間にしたい。</p> <p>上記を目標に、人との出会いや対話を大切に一週間の企画を行った。</p> <p>また、参加方法は</p> <p>①日替わりで服の色を合わせて登校する②各日程の企画に参加する③この企画を SNS など広めるの 3 つとし、企画に直接参加できない人も参加の方法があるようにした。</p> <p>以下が、各日程の詳細企画内容である。</p> <p>【月曜日】多様性を考え、偏見を揉みほぐすワークショップ 差別をしてしまう側、自分を隠してしまう側それぞれの立場に立つゲーム・勝手な思いやりや気遣いに潜む無意識の偏見に気付くワーク・相手を知ることによって偏見をなくす動画の視聴</p> <p>【火曜日】様々な背景を持つ大教生と話し、一年後の自分を想像する座談会 「ALLY とはなにか」「人に寄り添うとは何か」について、それぞれの生きてきた経験をもとに話し合った</p> <p>【水曜日】様々な生き方に触れ、自分を変える出会いを経験するリビング・ライブラリー 様々な選択をし、様々な生き方をしてこられた 10 人のゲストをお招きし、図書館を借りてリビング・ライブラリーを行った。1 対 3～5 という少ない人数で質問などを活発にしながらお話を聞いた。</p> <p>【木曜日】「じぶん」の思いを伝えあう、人権シンポジウム感想交流 人権シンポジウムで視聴した映画に関する感想について、映画監督や本学の先生方もお招きし、交流した。</p> <p>【金曜日】「なりたい自分」を考え・つながる、語る会 自分がなぜ「DAIKYO ALLY WEEK」に参加したのか、これからどんな自分になりたいのか、お互いに話し、そして聞いた。それぞれのやりたいことが実現できる場の紹介も行い、つながりもつくることのできた。</p>					
<b>4 経費の使途</b>					
	<b>事 項</b>	<b>数 量</b>	<b>単 価</b>	<b>合計金額</b>	<b>備 考</b>
	ロール紙	1	3,425	3,425	
	コピー用紙	3	389	1,107	
	ポケットティッシュ	1	3,672	3,672	
	カッターナイフ	2	626	1,252	
	カッターナイフ替刃	1	1,674	1,674	
	ハサミ	2	1,782	3,564	
	プリンタインク	4	5,400	21,600	
	ホワイトボードマーカー	1	620	620	
	ホワイトボードマーカー	1	620	620	

ホワイトボードマーカー	1	620	620	
マグネットクリップ	15	270	4,050	
マグネットフック	10	540	5,400	
画鋸	1	540	540	
水性ペン	5	1,296	6,480	
中綴じ用ホッチキス	1	3,240	3,240	
付箋	1	9,450	9,450	
付箋	1	9,828	9,828	
両面テープ	5	540	2,700	
対談・座談会出席謝礼	3	4,400	13,200	
対談・座談会出席謝礼	3	4,400	13,200	
対談・座談会出席謝礼	4	4,400	17,600	
対談・座談会出席謝礼	4	4,400	17,600	
対談・座談会出席謝礼 交通費	1	300	300	
対談・座談会出席謝礼 交通費	1	1,060	1,060	
対談・座談会出席謝礼 交通費	1	800	800	
対談・座談会出席謝礼 交通費	1	1,106	1,106	
対談・座談会出席謝礼 交通費	1	1,600	1,600	
対談・座談会出席謝礼 交通費	1	780	780	
対談・座談会出席謝礼 交通費	1	3,640	3,640	
会場借上	1	4,800	4,800	
合 計			155,582	

## 5 プロジェクトの成果

今回の企画での最も大きな成果は、「誰かのために、将来かかわる子どもたちのために、何かの一步を踏み出したいができていた」学生の一步となることができた点である。

実際に、企画が終了した後に本学にある人権や教育を考えるサークル・団体に加入した学生たちや、ボランティア活動に参加しようと決心したという学生たちの存在がある。参加した学生からは「この企画があってよかった」という声を聞いたり、先生方や人権シンポジウムでの映画『さとにきたらええやん』の監督さん等からも「意味のある企画である」「ぜひ続けてほしい」という感想をいただいたりした。

また、以下は水曜日の企画リビング・ライブラリーの感想から抜粋する。

- ・大学で学んだ同和教育・部落差別についての事柄が、一気に具体的・現実的に色づいた感じがしました。
- ・差別に対してどう向き合うか、人権感覚をどう育てるのかということのヒントをたくさん得ることができました。
- ・一番印象に残ったのは、しんどい子たちのロールモデルになるということだった。私もそうなれるように頑張る、なる！
- ・外国ルーツの方のセンシティブな面を含めてじっくりお話を聞く機会は初めてでした。貴重な機会をありがとうございます。
- ・本当に細かい心情までたくさん教えていただき、事実には驚きました。自分の視野が広がりました。
- ・今まで本などで目にするだけだった差別が、教育の場でこんなに横行していたということに怖くなりました。私は来年から小学校で“先生”になる予定ですが、そのような差別を自分がしてしまわないか、また、古い気質の残る学校でどこまで自分がやっていけるのか不安ではありますが、徐々に仲間を見つけてやっていきたいと思います。
- ・自分が悩んでいたところで一つあかりが見えたような気がしました。
- ・似た悩みを持つ人がいる、という安心がありました。
- ・しんどい子たちにどう接していくか、そういうところを突き詰めて考える良いきっかけになりました。
- ・こんな貴重な機会はあまりないので、ほんとに参加出来て良かったです。
- ・しんどいこと、つらいことを話すのは相手に悪いと思って、今まで過ごしてきました。しかし、そうではなく、しんどいことを話したら、逆に、相手に勇気を与えることもあると今日思いました。
- ・今回初めてのリビング・ライブラリーでしたが、貧困について貴重なお話を聞くことができ良かったです。私は将来、教員になるかどうか迷っている状態なのですが、どこに就職するにしても、いろんな人とのかわりを大切にしていこうと思いました。
- ・特別支援学校とインクルーシブ教育、どっちがいいの？と本気で悩み始めました。
- ・私自身、今まで自分のできないことを責めるばかりで、「人を頼るスキルを身につける」という発想がなかった。最近やっと「人とともに生きる」ということがどういうことなのか考えるようになった私にとって、より深く考えるきっかけになった。
- ・職場の中で、社会の中で、状況を客観的に伝え、発信するという杢田さんの生き方を知ることができてとてもうれしかったです。
- ・同じ境遇の【ゲストの方】のお話を是非聞きたい！と思っていました。【ゲスト】の学生時代を今の自分と重ねることで、共感する部分がたくさんあって、色んなことを思い出して涙が出てしまいました……。自分の思いを発信したり、人の話を聞いたり、共感し合ったりするためにきょうだい会に参加してみたいです。そこで【ゲスト】のようにこれからのことなど考えられるようになればいいなと思います。
- ・男性家庭科教員として感じてこられたことが、今の自分に重なったりすることもあり、自分の将来の理想の教員像が見えてきた気がします。
- ・私は来年から大阪の小学校で講師をする予定なのですが、「教師という職業」や「理想の教師像」にとらわれすぎず、柔軟にやっていきたいと思います。
- ・参加して良かったです。ひとつの方向性を考えるきっかけとなりました。

以上のように、視野が広がったり、自分の生き方を見つめなおすことができたり、授業で学んだことを自分の身に引き付けて考えられるようになったりした学生が多くいた。ほかの日程については、形に残る感想として回収はしていないものの、自らの新たな一步を踏み出せたという声を多く聞くことができた。また、これは DAIKYO ALLY WEEK 実行委員も同じである。

木曜の人権シンポジウムでの、学生による活動紹介に対しても、「人権は堅苦しいと思っていたが、同じ学生が活動していることを知り、イメージが変わった」といった感想を多くいただいた。

今回のプロジェクトによって、本学で「なにかしたい」と思っていた学生に対して、「アライ」という考え方をきっかけとして視野を広げ、どのような一步を自分は踏み出したいのかを考え、行動する機会を提供できたのではないかと考える。